

親父異端児 息子問題児

株式会社 高速、
高速紙工業 株式会社

創設者の軌跡

はじめに

私の父である、梅田邦代（くにしろ）は、株式会社高速及び高速紙工業の創設者です。父が、いかなる経路で会社創設に至ったのかを皆さんにお伝えすることは、自分の役割であり使命であると感じていました。

父は裸一貫から起業し、年間売り上げ数十億の企業に成長させたことに、成功者としての名声を受け、その独特の経営手法から印刷業界の異端児とも呼ばれる声がありました。

この、異端児Ⅱ（特異な存在）がキーワードとなり、おやじが異端児ならその息子は問題児？、以上のことから、本書のタイトルを「親父異端児、息子問題児」とし問題児が異端児の軌跡を楽しく伝えたい思いから、父、邦代Ⅱ異端児と称して書かせていただきました。

以上のことをご理解いただき、ご一読願えれば幸いです。

（以下本文、梅田邦代（くにしろ）Ⅱ異端児と称します。）

梅田 伸一

目次

昭和 10 年 (1935) 5 月 3 日 誕生

昭和 20 年 (1945) 5 月 3 日 10 歳

昭和 25 年 (1950) 15 歳 東京上陸

昭和 30 年 (1955) 5 月 3 日 20 歳

昭和 33 年 (1958) 4 月 4 日 23 歳 結婚

昭和 34 年 (1959) 11 月 15 日 長男 しんいち誕生

昭和 40 年 (1965) 5 月 3 日 30 歳

昭和 43 年 5 月

高速ビジネスフォーム株式会社

(資本金 400 万円) を設立

昭和 45 年 3 月

「高速ビジネスフォーム (株)」→『株式会社高速』

に社名変更

昭和 47 年 5 月 工場新設

昭和 50 年 (1975) 5 月 3 日 40 歳

昭和 55 年 3 月 資本金 6,400 万円に増資

昭和 56 年 5 月

川越市芳野台工業団地内に川越工場を新設

昭和 59 年 7 月

新潟県六日町に高速紙工業(株)を新設

昭和 60 年 (1985) 5 月 3 日 50 歳

昭和 64 年 (1989) 1 月 7 日 54 歳

平成 10 年 (1999) 5 月 3 日 64 歳

平成 20 年 (2009) 5 月 3 日 74 歳

平成 30 年 (2019) 5 月 3 日 84 歳

令和 3 年 (2021) 3 月 25 日 86 歳永眠

●会社経歴資料

おやじいたんじ

親父異端児

株式会社 高速、
高速紙工業 株式会社

創設者の軌跡



息子問題児

むすこもんだいじ



伊豆七島の新島

ウォーターズ竹芝前から新島までの距離

149 km

その他朝昼に竹芝港よりジェット便で

約2時間30分（気候状況により異なる。）

または、

調布飛行場から飛行機（セスナ機）で約35分。



東京竹芝から深夜出港、あくる早朝の

5時～6時に新島黒根港に着港

乗船時間約8時間～9時間の苦痛

正直、交通に不便なところ！

が

異端児の出生地

昭和 10 年 (1935) 5 月 3 日 誕生

「学歴、学問の知識もない男が**起業**し

従業員約 300 人あまりの

会社に**成長**させることができたのか？」



<東京都 新島 出身>

人並みならない、**忍耐**と**努力**

無から**有**を生む**発想**と**行動力**

そして

異端児の持つ**エネルギー** (情熱) とは?!

異端児が生まれた昭和 10 年頃の新島、島内での、一般主流とした職業が、船大工、農業、漁師と限られ医者、学校教員、警官などの要員は東京都からの派遣で当時は中学校ができたばかり？学問が必要ならば東京都内へと、島で生きていくうえでは、学問をあまり必要としない生活だったようです。

異端児の父仁左衛門は船大工、母の志は農業、新島での生活事情は貧しくもない中流であったようですが、時代的に物資そのものが豊富な事情でないために、特に食事は大変だったようです。

朝昼晩の三食は「くさや（魚の燻製）とイモ」「新島での食いは、くさやとイモ以外に見たことはなかった。」

そんな言葉が異端児の口癖でした。

食べ物での兄弟喧嘩は絶えなかったようです。

- 長男 ふくとよ
- 次男 くにしろ（異端児）
- 三男 いさお
- 長女 ふさえ



しん にざえもん
<母、志 父、仁左衛門>

三男一女で、長男、福豊(ふくとよ)は、父(仁左衛門)の後を継いで船大工、後に新島が観光ブームになり、おみやげ屋さん、レンタカー、自動車修理工場と職替えしていきました。

そして、**運命**の昭和 25 年 (1950)

異端児 15 歳 東京都心上陸

異端児の母しんの弟、東京は上野に住む

でっちぼうこう
こうじろ叔父さん宅へ **丁稚奉公**



あきない <こうじろおじさん>

こうじろおじさんの**商売**！

飲食店や、お店の広告をマッチ箱に印刷？プリント？

広告代理店まがい？

その他

何故か？自転車、自転車の部品を販売

*利益になるなら、商売なんでもアリの時代だったようです。

のちにこの

自転車販売が異端児の**運命**を変えることに

でっちぼうこう
当時の丁稚奉公スタイルは時代劇さながらのようで
使い走りの雑用、雑務、少しイジメ？

異端児が少しでも反抗的な態度をとると、おじさんは
「イヤなら新島に帰っていいんだよ！」と、でも、
異端児、新島まで帰る船代がない。

もちろん、おじさんは異端児がお金がないことを知って
いたようでした。

自分が小学三年生のころに、いたずらをして
異端児にお説教→正座で！

でっちくぎょうばなし
お説教なのだが、いつしか切々と丁稚苦行話
に変換→異端児熱弁、問題児、正座が辛くて泣き！

ほんとうに異端児の丁稚奉公時代は極限
だったと、こどもながらに痛感（´;ω;`）

のちに、伯父さん（おやじの兄）から異端児、
丁稚奉公時代の裏話を聞いた、丁稚奉公

ぼうこう
でなく丁稚に暴行？だったと、つまり、
暴行＝壮絶で悲惨だったとの意味のよう！

< 当時から修行、見習いは厳しいが、あたりまえ、
生きていくことだけが懸命な時代だったようです。 >

昭和 30 年 (1955)

自転車の販売において、つるみえつこと知り合いました。



<鶴見悦子(えつこ) 23歳の頃>

えつこの実家は茨城、自動車修理と**自転車**の販売をしていました。

父(鶴見三喜・つるみさんき)は昔で言われるバリバリ商人(あきんど)異端児はつるみさんきより商法を学ぶあらゆる商法の考え方を学んだようです。

さんきは、交通安全ボランティア活動、それは自転車売り上げの販売促進の活動でした。

さんきは、自分の息子のように異端児の面倒をみたようです。

のちに、異端児が販売促進行動旺盛な経営者になったのもつるみさんきの影響は大きいかもしれません。



<鶴見三喜・つるみさんき>

たくさんいる孫のなかでも、ほんとうに自分を可愛がってくれました。

じいちゃんが家に遊びにくると、決まって買い物に伸一が欲しいもの何でも買ってやる！

遠慮なく、あれや、これやと何でも買ってくれました。

ほんとうに、誰からも好かれる不思議な魅力をもつ祖父は多くのひとたちから愛された、人望の厚い人柄でした。

昭和 33 年 (1958) 4 月 4 日 結婚



<新島にて>

新郎・邦代(くにしろ) 23 歳

昭和 8 年 1933 年 12 月 11 日 生まれ

新婦・悦子(えつこ) 25 歳

「他の女と別れる」から「俺と結婚してくれ」と
プロポーズしたそう？

母が語っていました。

多分本当でしょう！

当時、自転車の販売も無店舗営業では**限界**があった。

されど、

店舗を持つ**余裕**などない、自転車の販売に限界も？

異端児は、

トラック運転手、タクシー運転手、会社勤めを望んだ
しかし、

母は頑なにそれを**拒否**、無理、ダメ

会社勤めが

できるわけがない。

でしょ・・・あんたには！

母えつこ語録

「あなたは、人に使われるひとではない」

解釈、様々

商人の家に育ったえつこは
何かと商売に関してひとを見る眼は確かだった。

あるとき母は、

紙をロール状に巻く内職を目にした。



それは、

今のレジロール (領収書) の

手巻き作業の内職であった。

まさに、

経済産業の成長とともに需要のある

ニッチな商材であった。

その時、

問題児 (息子しんいち) は

母のおなかのなかに！

昭和 34 年 (1959) 11 月 15 日 長男 しんいち誕生

母は、異端児にレジロール、領収書、請求書
などの特殊な印刷加工販売の起業を進めた。



<異端児 25 歳の頃 香港にて>

異端児 25 歳、印刷業、工場経営、全てが皆無で
毎日が手探りの状態であったろう。

母えつこ語録

「自分でやれば (起業)、誰にも文句は言われない」

内職の作業情報と人伝えから、北海道でレジロールの製作を営む工場にたどり着き異端児は熱心にアプローチしたようです。

結果、意欲のある異端児に協力、北海道の製作会社よりレジロールを仕入れて関東県内の商店に行商の日々が続いたようです。

仕入れて売るから、自分で作って売る、かといって機械設備する資金はない。

銀行から金融支援を受ける他なかった。

何とか銀行から融資を受けれても、所詮は返済計画なんてあって無いような状態で月日が経つと資金ショート、そして、また銀行に足を運び融資交渉。

銀行に金を借りに行くときは、

「髭を剃って行け」「印象をよくしろ」と

口癖のように言っていた。

のちに、あまり髭をはやす社員は好まなかった。

異端児語録

「会社を遅刻しても構わないから、

朝必ず髭を剃ってから入社しろ」

何時でも事業をあきらめる状態であったと語っていた。

しかし、異端児は**運**がいい、

大手製紙会社の協力や顧客の紹介で

仕事が**軌道**に乗り出す。

欧米ではすでに経済の成長とともに印刷業

ビジネスフォーム（レジロール）は成長の
過程にあった。

その全てを学ぶために異端児は海外に足を運んだ。



<26歳の頃>

異端児と母にとってビジネスフォーム産業に

参入（チャンス）することは**大きな賭け**であった。

自宅の前の空き地を借りて、レジロールを巻き上げる
加工機を搬入、パートを雇い営業から製造そして
販売までの工場を立ち上げた。

なんの、担保も保証もないまさに裸一貫からの
勝負（ビジネス）は、苦勞の連続だったであろう。

自分が物心ついたころ、
母は当時のことを振り返り、
毎日生きた心地がしなかった。
借金取りが押しかけても、おやじは寝たふりされて
お袋がひたすらに頭を下げていたようです。
あんな苦勞はもう二度としたくないと語っていた。

商品の宣伝と販売広告を主体とするチラシ、ポスター
商品リーフレット、商業印刷は当時「印刷屋」と
称されていた。
帳票、伝票＝領収書、請求書、一般連続伝票すなわち
ビジネスフォームは印刷産業として新しい位置づけが
されようとした時代だった。

コンピューターの活用で経理処理が普及されると、必然的に一般連続伝票も形を変えながら普及していった。Business Foam の頭文字をとって BF と称された印刷産業は時代の流れが味方となり成長を遂げて行った。



見よう見まね、まねるように学び、

自分の**商法**で道を切り開いた。

異端児の凄さは行動力にあった、新聞読めない！

本読めない！ましては、インターネットなんてない時代

すべての情報の収集は、自分で歩き、ひとからひとへ

日本国内にとどまらず、アメリカ、ドイツ、香港、へ

日本語もまともに**喋れない**人間が、どうやって海外

から機械を買ってきたの？・・・その答えは

覚悟と情熱でしかありません。

極端ですが、ネジ一つ止めるにも、ひとに頼む、そして

不思議と、それを**喜んで**やるひとがいました。

それは

異端児の**奇妙な魅力**だと思います。



<27歳の頃ドイツにて>



事業が好調な最中大惨事が起こる。
漏電により真夜中に工場が全焼！

そうなんです！漏電で工場が全焼！
しかし、異端児は強運の男、

そして 多額の保険金がおりのる。

保険金が資本金に

昭和 43 年 5 月



<高速ビジネスフォーム株式会社（資本金 400 万円）を設立>

「早寝、早起き、早飯、仕事が**趣味**の真面目な男」が

セールスアピール、スピード命、

言われたことはすぐにやる！

何でも早い**大好き**、だから思いは高く速（早）く

なので「**高速**」

この頃から、自分の誕生日5月3日の
5と3の数字に執着とこだわりを求めようになり
電話番号や自動車のナンバープレートに
5300の数字を使うようになる。

とにかくなんでも5と3であった。

誕生日にこだわったのは、自分の存在証明？
自分の誕生日だけ分かっていたらいい
春夏秋冬、自分の年齢なんて関係なくて
5月3日だけでOK 人生！そんな異端児

面白いように異端児の事業は成長を遂げていった。

母は口癖のように異端児を

「ほんとうに運がいい男」だと語っていた。

「災い転じて福となる」

まさにそんな生き方だった。

母えつこ語録

「自分の誕生日だけしか知らないひとだけど、
商売に関しては天才だよね」

昭和 45 年 3 月

「高速ビジネスフォーム(株)」→『株式会社高速』に社名変更

昭和 47 年 5 月 工場新設



<(株) 高速・朝霞工場、上空より>

このビジネスフォーム業界で順調に発展を遂げた要因に「下請け専門」に徹した姿勢であらゆるビジネスフォームの受注をしていきました。

高速なら、どんな仕事も受けてくれる。

できない仕事ならば設備をしても受注するスタンスでした。

なぜ「下請け専門」であったのか？

その要因は分かりません。

ただ「下請け専門」に徹した姿勢が功を奏しました。

昭和 50 年 (1975) 5 月 3 日 40 歳

昭和 55 年 3 月 資本金 6,400 万円に増資



<昭和 56 年 5 月 川越市芳野台、川越工場新設>

43 年、高速ビジネスフォーム株式会社設立をさかいに設備と増設を繰り返し、その設備は時代の流れにマッチし成長を遂げていきました。

当時、異端児は、「いつの間にか、川越に工場が建っていた」そんな言葉をよく口にしていました。

きっと、無我夢中の毎日だったと思います。

この時期から、異端児は印刷機械メーカーから新しい機械の売り込みを受けると、まるで、子供がおもちゃをねだるように、機械を買うと連呼、役員幹部と買う買わないの押し問答、いつしかこんなことが仕事になることもありました。



<とある自宅夕食とき>

異端児、あまり家にはいなかったものの、たまにある自宅での夕食時は重たい空気で必ず自分の爪の手入のチェックされていました。

爪の手入ができていれば、自己管理ができていると判断します。

つまり、異端児との空白の時間、お前は自己管理できていたのかと知る方法が爪のチェックでした。

少しでも爪が伸びていると「お化けみたいな爪だね」とイヤミをいわれました。

たとえ、爪が綺麗に整えられていても、つまりは小言まがいのお説教でした。

確かに、自分自身を気にかけていれば爪や身なりは整えようと思います。

自分はこの影響で、今でも3日に一度は爪を整えています。

異端児の人事評価基準は、仕事の能力の有無でなく容姿身なり優先、当然、爪は綺麗にしているか？

整理整頓ができるか？スピーディーに動くか？

挨拶は大きな声でできるか？

まるで小学生レベルの人事基準(笑)

ですが、最低でも挨拶はキッチリ、仕事としても基本的なことですよ！

異端児語録

「影日向(かげひなた)嘘のない人間に」って
両親の教訓だけど、それとは別なんだけど
悪いことはするよね、じゃないとね？

今の時代と違って、多少眼をつぶっても
危ない橋を渡るみたいな感覚があったようです。
もちろん、犯罪にならない許容範囲ですが！

毎年、**新入社員**の募集をする。

当時は、新卒の**高校生**、まれに大学生であったが
多い年で二十数名あまりの募集をかけていた。

経緯は定かではない、おそらく総務の人事関連で
あったと思う。

新潟六日町の新卒**中学生男子**をあずかり、
昼間は工場で働き、夜に夜間高校に通って**勉強**
(高校卒業資格)といった条件で数名を請け負う、
つまり**集団就職先**として高速が！
このことから新潟県六日町と関わりを持ち始める。

当時、新潟六日町から**十数名**ほどが就職していた。

川越工場の発展とともに**新潟六日町**の人たちに
信頼を得ていった。

いつしか、新潟六日町の地元の人々との**交流**が深まり

新しい**地場産業**としての工場の誘致と金融機関の
協力から、関越自動車、新潟長岡までの開通と
工場設立の条件が整った。



<昭和 59 年 7 月 新潟県六日町に高速紙工業(株)新設>

関越自動車道 昭和 60 年（1985 年）新潟長岡まで
開通、川越 IC から六日町 IC まで約二時間の交通の
便が武器になり六日町の広大な土地を利用しての
最大の機械設備を整えた。

新潟工場は当時ブームであったカラオケの歌う
曲目を探す「カラオケ本」を印刷しインデックス加工と
製本を一貫した設備で、国内の「カラオケ本」の印刷を
独占した。

異端児語録

「本妻は川越工場、愛人は新潟工場、
本妻より愛人に金をかける」
と異端児は語っていた。（設備費用の投資の差の表現）

昭和 64 年 (1989) 1 月 7 日 54 歳

仕事は順調に流れる、社会、全般が好景気すなわちバブルの最中だった。

この時期の流れを讀んでか、仕事以外の**趣味**を持ってと**ゴルフ**に興じる毎日。



頭をつかう麻雀はダメ！お酒はアルコールの分解酵素の少ない体質で俗に言う下戸（げこ）運動神経はあまりよろしくない。

残るはゴルフ！

ゴルフはどうにか性に合っていたようです。

好きになれば熱心に、ゴルフ接待が仕事となることは異端児にとっては好都合だったようです。

平成元年 (1989) 1月8日

異端児

本は読まない、文字も書かないと**徹底**していた。

厳密に言えば、字は読めない、字は書けない、

字が書けるのは自分の**名前**だけ

しかし

脅威的な**記憶力**と**発想力**

会社経理、経営、工場の設備に関しては全てが頭に入っていた。

なので、経営設備会議においては、全て頭の中の引き出しから

当時の異端児、学問など必要としない記憶力と発想力は経営者として**魅力的**な人間であった。

異端児語録

「僕は、読み書き、計算も得意じゃない」

計算できないって・・・

「数十億も売り上げる会社経営を

なさっているんですね？」

「あんたら、銀行がいたからね」

平成 10 年 (1999) 5 月 3 日 64 歳

異端児

とにかく学ぶことは、人から聞く耳学 なのでその人が
間違っただとそのまま間違っただ方向に進む、

間違っただ方向からの軌道修正に苦勞する日々があっただ。
「50 歩 100 歩」=(少しの違ひはあっても、本質的には
同じであるということ)

この言葉が異端児にブームなっただ意味を理解してか、
いつしか「100 歩 50 歩」の逆バージョンに変わり

意味不明な場面に

「100 歩 50 歩譲っただとしても」・・・・!?

いや「50 歩譲っただとても？」・・・・!?

「100 歩」の間違ひ?とにかく、メチャクチャ

面倒だから、

みんな訂正もせずに黙っただうなずいていっただ。

母えつこ語録

「あのひとの常識は、非常識だからね、周りが大変だよ」

経営者なら、経営の方向性や指針を分かりやすく述べるスピーチは**重要**。

ところが、異端児、朝礼、年末年始の挨拶は行き当たりばったり、頭に浮かんだ思いのままの言葉を述べる。

話が前後したり、何を言っている？意味不明……！理解しよう真剣に聞くのだが、やっぱり分からない？

例え話でも、「噛めば噛むほど味がでる」だから

「ガムを逆さから噛むようなもの？」つまり「スルメイカを噛むようなもの」なんだよ、仕事って言うのは？理解不能？話の主旨は「経験を経ていくことで仕事は奥深いものになっていくものだ」と伝えたいだけで、たとえばメチャクチャなクイズなんです。

あるとき、意を決して異端児に、「朝礼で何を言っているのか分からなかった」と述べると、異端児の答えは「俺の言っていることなんて分かってたまるか」と怒りまじりの答えが返ってきました。????

仕事において大切なのは**ユーモア**だと語っていた

異端児、**意味不明**なスピーチは「なぞとき落語」

のように、みんなを楽しませていた。

「なぞとき落語スピーチ」は**異端児流**

平成 20 年 (2008) 5 月 3 日 74 歳
昔、兜が好きで書いたことがあると言っていた。
73 歳の誕生に、無理矢理書かせた。



<73 歳 異端児画>

平成 20 年 (2008) 「リーマンブラザーズ」が経営破綻
すなわちリーマンショック、この影響は
日本経済に大きな打撃となり、やがて景気低迷期
をむかえることになりました。
当社の経営においてもその影響は大きく、
経営の悪化、経費の削減をするにも効果がみられず
どう、経営改善をしていくかと迷うそんな日々が
続きました。

無理だ、ダメだ書けないと言いながら、ノリノリになって2枚目を書いていた。

三本の矢は折れない強さを意味してる？説明聞くも理解不能、つまりは、3つが好きだからと！



リーマンショック、東北大震災と続いた景気の影響はあまりにも大きかった。

しかし、ほんとうに「強運」の持ち主なのか？なんとかどうにか、少しずつであったが経営は持ち直してきた。

しかし、

デジタル産業の進化に伴いすでに他の印刷業界は将来に向けての準備は整えられていた。

平成 30 年 (2019) 5 月 3 日 84 歳

本書の最初に

「学歴、学問の知識もない、ある男がなぜ起業し
従業員約 300 人あまりの会社に成長させることが
できたのか？」と書いた。そして・・・・・・?!

その答えは

「事業を成しえる運命のひと、だったから」



母は異端児のことを口癖のように「運の強いひと」
だと語っていた。

母に出会えたのも運のひとつ、ここまでこれたのも、
母の大きな愛と力、そして、みんな(従業員)の
努力、苦労、笑顔と、力と愛で築いていった。

だから、異端児も、母も望んでいるのは、これからの
高速、高速紙工業は、みんなの城、みんなが守り、
みんなが築いていく城であれと。

始まりがあれば終わりがあります。

しかし

筆者である自分勝手な権限で異端児の物語は
終わりなきものとしたします。

これから(株)高速、高速紙工業(株)の業態や社名が
変わろうとも会社創始者、梅田邦代=異端児は
皆様と同じ社員として一緒に新たな未来の物語へと
歩み始めます。



(株) 高速 創立14周年記念 並川越本社工場落成式 S 57. 5. 8

これからも 親父異端児

息子問題児 のままで

会社経歴

昭和 43 年 5 月埼玉県朝霞市膝折に
高速ビジネスフォーム株式会社（資本金 400 万円）を設立



昭和 45 年 3 月『株式会社高速』に社名変更
昭和 47 年 5 月旧工場を閉鎖し、同朝霞市に本社工場が新設
される平圧機・凸輪転機・丁合機を導入する



昭和 47 年 6 月当社の技術協力と梅田会長の支援により福岡県に
クワノフォーム印刷(株)が設立される



昭和 48 年 2 月東京都西多摩郡に協力工場として、
(有)井上紙工（五日市工場）が設立される



昭和 50 年 4 月 朝霞市田島に高速寮が新設される



昭和 50 年 5 月 創立 7 周年記念パーティーが開催される



昭和 50 年 7 月 所沢市に所沢第一工場が新設される
昭和 53 年 11 月 所沢市に所沢第二工場が新設される



昭和 54 年 5 月
東邦会館に於いて創立 11 周年記念パーティーが開催される



昭和 55 年 3 月 資本金 6,400 万円に増資
昭和 56 年 5 月 川越市芳野台工業団地内に川越工場が新設される
内間木工場、所沢第一工場の設備を集約する



昭和 57 年 5 月

川越工場竣工式及び創立 14 周年記念パーティーが開催される



昭和 59 年 7 月 新潟県六日町に高速紙工業㈱が新設される



昭和 60 年 3 月 原紙倉庫棟を増設、

3 階建駐車場を新設（資本金 8,400 万円に増資）



昭和 61 年 11 月銀座営業所が開設される
昭和 62 年 8 月本社を朝霞市より川越市に移転する



平成 2 年 3 月池袋営業所が開設される



平成 4 年 4 月 朝霞寮が新築される



平成 5 年 1 月 池袋営業所を閉鎖し、北朝霞営業部が開設される
平成 6 年 1 月 銀座営業所を閉鎖し、北朝霞営業部へ集約する



平成 8 年 3 月
可変データ印刷の為、インクジェット印刷システムが導入される



平成 8 年 4 月
所沢第二工場を閉鎖し、川越市的場に加工センターが新設される



平成 10 年 10 月

情報処理棟が改築されるデータプリントサービスに参入



平成 11 年 6 月 漢字プリンターツインシステムを情報処理部に
導入し請求書等の発送業務を開始



平成 11 年 9 月 情報処理部にメーリング用自動封入封緘機が
導入され量産体制を構築する



平成 12 年 1 月

日本 NCR (株) の協力工場として、大磯工場が新設される



平成 12 年 5 月 製版に UV セッター (CTP) が導入される



平成 12 年 6 月 大磯工場に省力化を図る為、
全自動スリッター機 (2 台) を導入する



平成 13 年 8 月 製本部門が新設される
(早川製本の機械を高速に移設)



平成 14 年 9 月 加工センターを売却
平成 16 年 6 月 新製品開発の為、スクリーン印刷機を導入する



平成 16 年 9 月 プライバシーマークを取得する



平成 16 年 10 月

生産体制を強化する為、バーサマークを導入する



平成 16 年 12 月 大磯工場を閉鎖する

平成 18 年 2 月 印刷機（8色）を購入する



平成 19 年 7 月 全印刷機に紙面検査機を設置する



株式会社 高速

〒350-0833 埼玉県川越市芳野台 1-103-7

TEL : 049-225-5300 FAX : 049-225-7104

北朝霞営業所

〒351-0034 埼玉県朝霞市西原 1-7-26

TEL : 048-487-5300 FAX : 048-476-0010

<http://www.koosoku.co.jp/>

高速紙工業 株式会社

〒949-6797 新潟県南魚沼市津久野 1112-14

TEL : 025-773-5300 FAX : 025-773-3304

北朝霞営業所

〒351-0034 埼玉県朝霞市西原 1-7-26

TEL 048-486-6300 FAX 048-486-3300

<http://www.kamikogyo.com/>

「親父異端児、息子問題児」

著者 梅田 伸一

編集 庵 伸一